

# 福井工業高等専門学校のカンパスことばとその特徴

清 島 絵利子\*

## Campus words of “National Institute of Technology, Fukui College”

Eriko KIYOSHIMA

This study reports the findings of the campus words that intended for a fourth grader registered at National Institute of Technology ,Fukui College. I thought about words peculiar to Fukui College as the campus speech that was the subdivision of youth words and about the words peculiar to Fukui College that a student used (or he knows it) , analyzed it from the viewpoint of “things” and “persons”. As a result, there was the negative evaluation word peculiar to youth words at both points of view. The expressions were arranged by the thing which the person who saw and heard the words spilled a smile on unintentionally. A characteristic that gentleness and uniqueness of the Fukui College students were felt appeared.

Keywords : Wakamono Kotoba, campus word, jargon, slang, Language Behavior

### 1. はじめに

本研究は、福井工業高等専門学校（以下、福井高専）に在籍する4年生を対象として行ったキャンパスことばの調査結果の報告と分析をまとめたものである。本校の学生は国語という教科を苦手としている者が多いが、日頃の授業の様子を見てみると「ことば遣い」には非常に興味関心があるように感じる。学生たちは高学年になると就職や大学への編入を控えていることから、口々に「相手に失礼にならないことば遣いで話せるようになりたい」と言う。

今回、キャンパスことばの調査を行うきっかけとなったのは、昨年、着任して間もなく、国語表現の授業中に「福井高専のABCって知ってますか？」と学生に質問されたことである。筆者は何のことか分からずにいると、学生は「え？知らないんですか？校長先生が集会でいつも言う言葉で、Aは挨拶 (aisatsu) Bは美化 (bika) Cはコンプライアンス (compliance)。なんでCだけ英語なんか分からんけど」と笑顔で教えてくれた。校長先生が集会の時に学生に向かっておっしゃる言葉であるが、これは、福井高専生と教職員にしか分からない「キャンパスことば」

の1つである。集会等での挨拶にはあまり耳を傾けない学生が多いなか、「福井高専のABC」がこれほどまでに学生に浸透しているということは、ことば遣いには敏感であると言える。また、言語意識も高いのではないかと推測し、今回の調査に至った。第2章では若者ことばとキャンパスことばに関する先行研究と定義について、第3章では調査の概要、第4章では調査結果、第5章では造語法について分析、第6章ではまとめを行う。

### 2. 若者ことばとキャンパスことばに関する先行研究

若者ことば（若者語）研究としては、米川明彦氏の一連の研究が挙げられる。

キャンパスことば研究としては、近年は、本研究で参考にさせていただいた原田（2013）、岡田（2011）、中東（2003）などが挙げられる。どれも「大学」を対象として分析したもので、「高専」を対象としたものは管見の限り語彙集にとどまっている。

原田（2013）では、一橋大学に在籍する学生を対象に、大学内だけではなく大学外でも使う若者ことばにまで範

\*一般科目教室（人文・社会科学系）

囲を広げ、調査・分析を行っている。一橋大学内で使用されることばは「バシことば」、それ以外は「若者ことば」として単語集が作成されており興味深い。しかし、「バシことば」に分類されるものを見ると、「仮進」「教務課」「クラT」など、当該大学に限らないことばも含まれており、再考が必要であろうと思われる。

岡田（2011）では、九州共立大学に在籍する学生を対象に「普段自分で使っている言葉の中で、『若者ことば』『キャンパスことば』と思うものを教えてください」と質問し、ことばとその意味に加えて例文も記入してもらったたちをとり、ことば集を作成している。

中東（2003）では、大学生が大学キャンパスで用いる特徴的なことばを集めた「キャンパスことば」という用語は1980年代からみられ、1980年代末～1990年代にかけて研究が本格化しているとされる。しかし、「キャンパスことば」という用語について、下記のような問題提起をしている。

「キャンパスことば」の定義は一定していない。「大学生が大学キャンパス内で用いる特徴的なことば」という点では一応の共通認識があると思われるが、細分にわたっては筆者によりまちまちである。

そこで、「若者ことば（若者語）」と「キャンパスことば」の位置づけであるが、若者語に関しては、米川（2008）で、以下のように定義されている。

若者語とは中学生から三十歳前後の男女が、仲間内で、会話促進・娯楽・連帯・イメージ伝達・隠蔽・緩衝・浄化などのために使う、規範からの自由と遊びを特徴に持つ特有の語や言い回しである。

また、米川（2009）では、キャンパスことばは、若者ことば（若者語）の下位分類であり、特定のキャンパスを中心に集まる学生集団のことばを捉えたものであるが、キャンパスに属さない一般の若者にも共通のことばになっているとしている。中東（2003）や原田（2013）でも述べられているように、キャンパスことばの共通認識や定義は筆者により異なる部分がある。そこで本研究では、『福井高専生』

にしかわからないことば（福井高専特有のことば）」を福井高専のキャンパスことばと位置付けて論を進めていく。

### 3. 調査の概要

#### 3.1 調査方法と調査対象者

調査対象学生は、筆者の勤務先である福井工業高等専門学校の学生である。国語表現を受講している4年生5クラス188名（留学生を除く）が対象で、年齢層は18歳～20歳となる（留年生も含むため）。「若者ことば」「キャンパスことば」という用語を提示する前に、福井高専でしか使わない（使っていない）ことばがあるかどうかをクラス全体に問いかけたところ、5クラスとも第一声が「校長先生が言う『ABC』」であった。その後、質問紙法（アンケート調査）で回答を得た。授業の一環でもあり、記名式で年齢と性別も記入してもらった。学生には「書いてもらった内容は他の教員には言わないので、安心して書いてほしい」と一言告げ、自由に記入してもらっている。

##### ①調査実施期間（アンケート用紙配布・回収）

平成28年7月

##### ②配布部数と回収率

アンケート用紙の配布部数と回収率は次の表1のとおりである。

	4年生5クラス		合計人数
	男性	女性	
在籍者数	142	46	188
配布・回収部数 （授業出席者）	137	43	180
回収率（%）	96.5%	93.5%	95.7%

表1 キャンパスことばアンケート用紙配布・回収部数（回収率を含む）

上記の表1は、4年生5クラスの男女別に回収部数と回収率を出したものである。欠席者が8名いるものの、回収部数は180部、回収率は96%である。

#### 3.2 調査内容

調査内容は3項目である。3.1でも述べたが、まず、福井高専での学校生活において、「福井高専生」にしかわ

からないことば（福井高専特有のことば。例えば短縮語など）を使うかどうかを尋ねた。キャンパスことばの定義と意味は講義済であるが、学生から「イメージが掴みにくい」との意見もあり、アンケート用紙には敢えて「福井高専特有のことば」と記入し、質問に答えやすいようにした。次に、使う者と使わない者それぞれに、その理由を尋ねている。使用・不使用には各人の言語意識や気持ちが隠されていると考えたからである。最後に、福井高専生にしかわからないことば（福井高専に直接関係する語）と定義（意味）、例文を記入してもらっている。

#### 4. 調査結果

##### 4.1 福井高専特有のことば（キャンパスことば）の使用・不使用率とその理由

福井高専特有のことば（キャンパスことば）の使用率は、下記の表2のとおりである。アンケート調査当日の授業出席者は男性137名、女性42名の計179名である。残り1名は後日提出があり、アンケート用紙には氏名の記載のみであったため、「回収率」のカウントだけになっている。

	使　　う		使わない		未　回　答	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
人　　数	105	36	29	6	3	0
男女別使用・不使用率(%)	76.6%	85.7%	21.2%	14.3%	2.2%	0%

表2 福井高専特有のことば（キャンパスことば）の使用・不使用率

男性の使用率は77%、女性は86%で、男性の使用率よりも女性の使用率が9%高い。福井高専では、女性の方がキャンパスことば（いわゆる若者ことば）に興味関心があるということだろうか。下記に、男女別で福井高専特有のことばを使用する理由として記入された主なものを挙げる。

##### <福井高専特有のことばを使用する理由>

###### 【男性】

- ・使いやすくて楽だから（重みがなくて使いやすい）
- ・元の単語より短くて言いやすい（略した方が楽、長いことばは面倒）
- ・みんなが使っているから（なんとなく）

- ・普通のことばを使うよりも面白いから（ノリ、かっこいい）
- ・話が盛り上がるから
- ・言いたいことが相手に伝わりやすいから

###### 【女性】

- ・楽だから
- ・みんなが使っているから（なんとなく）
- ・短縮語だと話の長さが短くなって手間がかからないから（言葉の短縮、便利、文字数が少なくなる）
- ・親しみをこめて
- ・楽しい、仲の良い感じがするから
- ・みんなに簡単に伝わるから

男女ともに共通しているのは、「楽」「みんなが使っている」「言いたいことが伝わりやすい」という3点である。とにかく「楽」であることが大きな要因なのだろう。ある時、学生にLINEでのやりとりを見せてもらったことがある。主に、一文（もしくは一単語）で何度もやりとりを繰り返しており、複文（長文）は見られなかった。米川（2016）でも、現代の若者ことばも「ラク」と「たのしい」が根底にあることが特徴だと述べられていることから、福井高専生もその例外ではないと言える。

次に、男女別で福井高専特有のことばを使用しない理由として記入された主なものを挙げる。男性の不使用率は21%、女性は14%で、男性の方が7%上回る結果となっている。

##### <福井高専特有のことばを使用しない理由>

###### 【男性】

- ・他の言葉で事足りるから（必要性がない）
- ・福井高専だけで使われているのかどうか分からない（見当がつかない、どんなことばがあるのか知らない、思いつかない）
- ・意識せずに使っていて、思いもつかないから
- ・正しい使い方が分からないから（誤用が怖い、相手がそのことばを知らないと伝わらない）
- ・高専に染まりたくないから

###### 【女性】

- ・他に便利なことばがあるから

- ・分かりづらいから
- ・福井高専生にしかわからないことばを知らないから  
(どんなことばがあるか知らない)
- ・あまり使う機会がないから

ここでも男女ともに共通しているのは、「他のことばでも通じるから」「福井高専だけで使われているのかどうか分からないから」ということである。使用しないと記入していた男子学生にその理由を尋ねてみたところ、「わざわざ特有のことばで言い直さなくても、もともとのことばで通じるから」という返答があった。その学生にとっては、言い直しが手間であり、従来のことばで話した方が「楽」なのだろうと考える。また、ある女子学生は「福井高専特有のことばが何なのか分からないから」と言い、敢えて使っていないというのではなく、特有のことばが浸透すぎて日常言語になり、特有のことばとの区別がつかなくなっている状態なのだろうと思われる。

また注目したいのは、「高専に染まりたくないから」という理由である。上記2で若者語の定義として、米川(2008)を引用した。若者語は仲間内で使うことで仲間としての連帯感を高め、かつ娯楽や会話促進の意味がある。ゆえに、当該学生は、「福井高専特有のことばを使う＝福井高専生の一員」になると認識しており、意図的に使わないことで「自分は福井高専生の一員(仲間)ではない」と意思表示していることになる。米川(1996)に、「新ていねい語」というものが若者の間に広がっており、同級生同士でていねい語を使い、親しくなる気はないというサインを示すことができるとある。当該学生は常に敬語を使って話をしているのかは分からないが、ことばで他の学生とは一線を引き、若者特有(ここでは福井高専生として)の連帯感やノリを拒否しているのだろう。

以上、福井高専特有のことばの使用・不使用率について考察してきたが、米川(2009)によると、若者語は使用について個人差が激しく、言語意識の差が大きいとされる。また、若者語の使用に男女差があるのは語形と意味が関係しているとされる。福井高専においても、男性女性それぞれに使いやすい(あるいは使いにくい)単語や各人の思惑があり、ある程度意図的に福井高専特有のことばの使用・不使用の選択をして会話を行っていることが分かった。

## 4.2 福井高専特有のことばの数と特徴

米川(2009)によると、若者語を「人に関する語」「物事に関する語」「言葉に関する語」で三分類すると、「人に関する語」が一番多いとされる。下記の表3は、学生が記入した福井高専特有のことばの数を、米川(2009)の分類を参考に示したものである。当初、筆者は「人に関する語」が一番多いだろうと予測していたが、福井高専の場合は「物事に関する語」が一番多かった。

	個数(重なり語数含む)
福井高専特有のことば	447
物事に関する語	269
人に関する語	142
ことばに関する語	36

表3 福井高専特有のことばの数(重なり語数含む)

### 4.2.1 人に関する語

「人に関する語」142語を「教員」と「学生」でさらに分類すると、「教員」に関する語が107語、「学生」に関する語が35語であった。

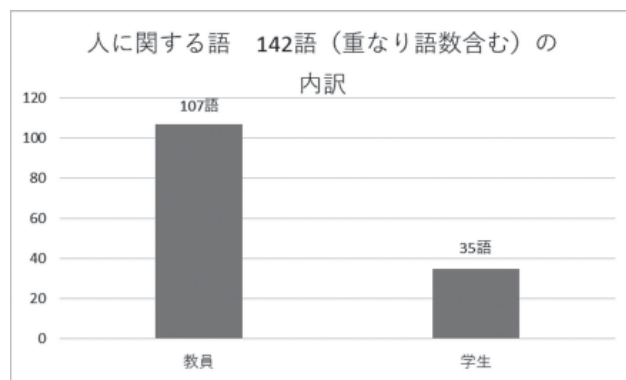


表4 人に関する語 142語の内訳

では、教員や学生に関する語とはどのような内容のものなのか。米川(2009)では、人に関する語でも人を批判的にいうマイナス評価語が多いとしている。福井高専の学生が記入したものにも、確かにマイナス評価語は存在し、辛辣な評価をしているものがある。しかし、仲間内のことばであり、ある意味「隠語」であるマイナス評価語を一部であってもアンケートに記入してくれたということは、学生が教員を信頼しているということにもなる。

そこで、福井高専生が記入した「教員」に関する語を、

米川（1996）にある 11 のカテゴリー別（様子、容姿、性質、言動、能力、職業、年齢、性、結婚、その他、地方）に分類したものに当てはめてみた。米川は、様子（人の全体を見た時に感じる雰囲気、様子などを評価して表す語）が一番多いとするが、本研究における教員に対するものに関しては、その他（上記 11 の分類に当てはまらないもの）が一番多く、次に性質（性質・人格などで人を評価して表す語）が多かった。

	語数(重なり 語数含む)	割合(%)
その他	69	64.5%
性 質	18	16.8%
能 力	5	4.7%
容 姿	6	5.6%
言 動	5	4.7%
様 子	4	3.7%
職 業	0	0%
年 齢	0	0%
性	0	0%
結 婚	0	0%
地 方	0	0%

表 5 教員に関する語 107 語の内訳

勿論、表 5 の中には先述したように、教員に関するマイナス評価語も含まれている。今回は敢えて学生の今後の学校生活と言語行動の妨げにならないよう、マイナス評価語の提示は行わないこととする。しかし、学生は理由があってマイナス評価語として表現している背景がある。それらの表現を記入した学生に理由を尋ねてみたところ、「授業が分かりにくいから」「容姿（身なり）が整っていない（髪型や服装が教員らしくない）から」という返答があった。マイナス評価語で表現されていることは、決して気持ちのよいものではないが、一概に学生を責めることはできない。それは、学生のことばによって教員の反省すべき点（分かりやすい授業をすること、教員としてふさわしい服装や態度を心がける必要性）が浮き彫りになっているからである。筆者がデータを見る限り、マイナス批判語はあるものの、大部分の福井高専の学生は教員に親近感を感じ、好意的に見ているように思われる。そこで、教員に親近感を持っていると思われる語で個人名が特定されないものを、表 5 の 11 分類から一部だけ例を挙げる。

＜教員に親近感を持っていると思われる語＞

#### ①その他

・〇〇 △△（〇：苗字＋△：名前）先生

→ 〇〇たん、〇〇ちゃん、〇〇りん、〇〇さん

（男性と女性の教員に対するもの）

→ △△ちゃん（女性の教員に対するもの。名前＋ちゃん）

【補足】授業名を教科担当の先生の名前で言うことがある。

#### ②性質

・仏、神様

【定義（意味）】〇〇先生 【例文】未記入

#### ③容姿

・パパ

【定義（意味）】〇〇先生 【例文】未記入

#### ④様子

・パパ

【定義（意味）】〇〇先生（③とは別の教員）【例文】未記入

#### ⑤言動

・歩くフェイスブック

【定義（意味）】〇〇先生 【例文】未記入

【補足】

意味が不明であったため、理由を尋ねたところ「〇〇先生は授業中、学生が発言するたびに『いいね！』を連発するから」という回答を得た。

以上、学生の今後の学校生活に支障がない範囲で、ことばの提示をした。⑤の言動で、ここでは例を挙げていないもののなかには、教員の普段の口癖を記憶して、自分たちが同じ状況に遭遇したときに使用しているものもある。また、学生同士で教員の話をする際に「〇〇たん」「〇〇ちゃん」「〇〇りん」というように「苗字＋たん（ちゃん、りん）」「名前＋ちゃん」と呼んでいるのは、親しさの表現である。福井高専は、教員と学生との距離が近いのだと思われる。



学生の言い方にもよるが、決して教員を馬鹿にしたことではないことがわかる。

次に、人に関する語の「学生」に関する語 35 語も表 5 のように分類すると、以下のようになった。

	語数(重なり 語数含む)	割合(%)
その他	14	40.0%
能力	12	34.3%
様子	7	20.0%
容姿	2	5.7%
性質	0	0%
言動	0	0%
職業	0	0%
年齢	0	0%
性	0	0%
結婚	0	0%
地方	0	0%

表 6 学生に関する語 35 語の内訳

教員に関する語とは若干結果が異なり、その他が一番多いのは同じだが、次に多いのは能力（能力・成績で評価して表す語）であった。能力の場合は、プラス評価ではなくマイナス評価語が多い。しかし、嫌な気持ちになるものではなく（張本人であれば気分は悪いだろうが）、むしろ表現の豊かさに顔がほころんでしまうものが多い。これは、福井高専生の優しさの表れなのだろうか。以下に、能力を表す語の一部を挙げる。

＜学生に関する語で「能力」を表す語＞

・四天王

【定義（意味）】クラス順位下から 4 人 【例文】未記入

・りゅうかくさん（留確さん、留確さんチーム）

【定義（意味）】留年が確定した（しそうな）人（たち）

【例文】今年の留確さんはあの人

・仮進さんチーム

【定義（意味）】仮進級の人たち

【例文】仮進さんチームは、今日追試やで

・デュエリスト

【定義（意味）】留年生 【例文】未記入

主に成績不振者に対する語であるが、筆者は「りゅうかくさん」は一見しただけで意味が分からなかった。正式名で語を分解してみると、「りゅうねんかくてい+さん→りゅうかくさん」となり、不謹慎にも思わず笑みがこぼれてしまうほどの出来具合である。また、それぞれの語に「さん」という敬称をつけているところは、岡田（2011）や原田（2013）にも見られない。単語一つの使い方にも、福井高専生の特徴（性格）が表れているのだと考えられる。

#### 4.2.2 物事に関する語

次に、物事に関する語 269 語を米川（2009）にあるカテゴリ別に分けてみた。一番多いのは、授業・学科名に関する語で、次にキャンパス内の場所名や周辺の場所名になった。概観する限り、授業・学科名や場所名を正式名で言うのではなく、「略語」で言うものがほとんどであった。下記の表 7 は分類の詳細である。次にカテゴリ別の語を一部挙げていく。

	語数(重なり 語数含む)	割合(%)
授業・学科名に関する語	143	53.2%
その他	58	21.6%
キャンパス内の場所名や 周辺の場所名	31	11.5%
通学手段に関する語	21	7.8%
情報通信機器に関する語	6	2.2%
コンパに関する語	5	1.9%
コンビニ名・飲食店名	4	1.5%
ファッションに関する語	1	0.4%

表 7 物事に関する語 269 語の内訳

＜授業・学科名に関する語＞

・E科、M科、C科、E I科、B科（全学科共通）

【定義（意味）】各学科の略称（E科：電気電子工学科、M科：機械工学科、C科：物質工学科、E I科：電子情報工学科、B科：環境都市工学科）

【例文】M科棟へ行く

・ドラチャン（物質工学科）

【定義（意味）】ドラフトチャンパーの略

【例文】ドラチャンの中でやって

・電デバ（電子情報工学科）

【定義（意味）】電子材料デバイスの略

【例文】今日の電デバわからん

・シス論（電気電子工学科）

【定義（意味）】情報処理システム論

【例文】シス論の課題をやらなければいけない

・センス（機械工学科）

【定義（意味）】関数電卓のこと

【例文】センス持ってきてねーんけ

・あかる

【定義（意味）】赤点を取る 【例文】未記入

・スタンプラリー

【定義（意味）】仮進や反省文などに様々な教員の印鑑が必要なのでそれもらいに行くさま

【例文】スタンプラリーに行く

先にも述べたが、授業・学科名に関する語は略語が多い。学科名に関する略語（E科、M科など）は、高専特有のものである。佐藤（2006）では、茨城高専図書館だより第63号の特別寄稿として「茨城高専生のキャンパスことばベスト50」で茨城高専生が使うことばを列挙し、M科は機械システム工学科、E科は電気電子システム工学科、C科は物質工学科との記載がある。学科の名称に若干の違いはあるが、機械系と電気系、物質系は本校と同じ表記であった。また、異なる表記もあり、電子情報工学科はD科（本校ではE I科）、電子制御工学科はS科（本校での該当学科はなし）となっている。ちなみに「ドラチャン」や「センス」は、「茨城高専生のキャンパスことばベスト50」には列挙されていない。

また、学生が記入している例文を見ると、自分自身で考えた例文が少なく、学生がほぼ同じ例文（教員が授業中に

話したことば）を書いているのが特徴的である。教員や友人の話をよく聞いており、記憶にとどまっているという証拠であろう。また、「あかる」「スタンプラリー」という造語は、岡田（2011）や原田（2013）に見られないが、佐藤（2006）には「赤い」で「テストの結果が赤点であった時に使う」とされている。次に、その他（カテゴリーに当てはまらないもの）の語を一部挙げていく。

<その他>

・チャレンジキッチン／葉膳キッチン

【定義（意味）】2015年に福井高専学生寮で隔週金曜日に提供されていた昼食のこと。健康重視ゆえ、味はかなりまずい。

【例文】今日の昼食はチャレンジキッチンだ…

・頭さびくる（さびてる、さびている）／さびる（さびる、錆びる、さびてる）（機械工学科）

【定義（意味）】金髪（髪の毛が茶色いこと）

【例文】おい、〇〇頭さびてんじゃねーけ

・ベタる（物質工学科）

【定義（意味）】エレベータに乗る

【例文】階段だるいでベタろう～

その他では、上記に挙げた語以外でも造語が多いのが特徴である。「チャレンジキッチン」を記入した学生になぜこういう造語なのかと理由を尋ねたところ、「毎週金曜日の昼食の時間が恐怖だった」「食べること自体が嫌だった」という返答を得た。食べたくないけれど、食べざるを得ないので、「チャレンジ」とつけたようである。

4.2.3 ことばに関する語

ことばに関する語は、重なり語数を含めて36個あるが、学生が記入した単語は実質2個である。その2個を下記に挙げる。

<ことばに関する語>

・（福井高専の）ABC

【定義（意味）】A I S A T S U（挨拶）、B I K A（美化）、

COMPLIANCE (法令順守) の頭文字

【例文】ABCを守ろう！(他多数)

・ABCD (体育祭限定)

【定義(意味)】AISATSU (挨拶)、BIKA (美化)、COMPLIANCE (法令順守) の頭文字で、体育祭限定でDOPAMIN (ドーパミン) の頭文字がつく

【例文】未記入

この2つは学生が作ったものではなく、校長先生が作った略語である。例文は学生がそれぞれ作成している。先の4.1で述べたように、福井高専の学生も会話において「楽」「たのしい」「使いやすい」を重視する傾向がある。校長先生の略語は、現代の若者（ここでは福井高専生）の会話における心理傾向を反映させたことばであったため、各人の記憶に留まり、使いやすいものになったのだと考えられる。米川（2009）で、若者ことばで一番多いものは省略であると述べられていることから、「福井高専のABC」がここまで学生に浸透しているのは、校長先生の戦略が功を奏した一例だと思われる。

## 5. 造語法について

4.2.1から4.2.3では、学生が記入した語を例示し、分析を行った。その中には、略語ではなく「造語」もあった。福井高専での造語の一部は再掲になるが、米川（2008）（2009）に挙げられている学生集団の造語法に当てはめて分析してみる。

・造語1「歩くフェイスブック」

授業中「いいね！」を連発する教員のことであるため、「なぞなぞ式、だじゃれ式にひとひねりした転義」と考えられる。「いいね！」を連発して教室内を歩く→フェイスブックを連想ということだろう。

・造語2「留確さん（りゅうかくさん）」

留年が確定した（しそうな）人のことであるため、「もじり」と考えられる。のど菓・のど飴の「龍角散」を「留確さん」ともじっている。

・造語3「四天王」

クラス順位下から4人のことであるため、「動作・行為の類似に基づく転義」と考えられる。「四天王」とは、精選版日本国語大辞典（2006）では「ある道、ある部門で才芸の最もすぐれているもの四人の称」という意味であるが、福井高専では「才芸の最もすぐれていないもの四人の称」と意味を転じている。

・造語4「スタンプラリー」

仮進級や反省文などに必要な様々な教員の印鑑をもらいに行くことであるため、「動作・行為の類似に基づく転義」と考えられる。「スタンプラリー」とは、大辞林第三版（2006）では「一定の経路を巡って各ポイントに置いてあるスタンプを集めるゲーム」という意味で、その行為（スタンプを集めるというゲーム）には楽しさがある。福井高専では「もともと仮進や反省文を書くという弱い立場のなか、自分の置かれた状況を『承認』して押印してもらうために、様々な教員の研究室に出向いて印鑑を集めなければならない」と意味に転じている。勿論、楽しさはない。

・造語5「チャレンジキッチン」

2015年に福井高専学生寮で隔週金曜日に提供されていた菓膳を使用した昼食のことである。これは、「チャレンジ【名詞】+キッチン【名詞】」を並べものであるため、「複合」と考えられる。寮の台所（キッチン）で、苦手な菓膳を使用した昼食を食べなければならない→食べる（チャレンジ）ということであろう。

・造語6「頭さびてる」（同様の語も含む）

髪の毛が茶色いことであるため、「動作・行為の類似に基づく転義」と「形・状態・色の類似に基づく転義」の2つが考えられる。「さびる」とは、精選版日本国語大辞典（2006）では「金属の表面に錆を生ずる。水漬（みしぶ）がつく」という意味である。「金属」が錆びて「茶色に変色」することであり、福井高専ではその過程を「髪」を染めて「茶色に変色」させることとして、意味を転じている。この語は、行為の類似（物体の色が変化する）ことと、色の類似（変化した色が茶色）の2項



目が含まれている。

#### ・造語7「ベタル」

エレベーターに乗ることである。名詞に動詞の活用語尾「る」をつけているもので、「動詞の派生、動詞の活用語尾「る」をつける方法」である。「ベタル」は、窪園(2006)の分類によると、名詞の短縮形から派生した動詞となる。基本的に「語頭の2モーラ+『る』」の形をとり、元の意味が分かるようになっている。この考え方を「ベタル」に当てはめてみる。

エレベーター + る

- ・語頭の2モーラ+る → エレる → 意味が分からない
- ・語末の3モーラ+る → ベタル → 意味が分からない
- ・語末の3モーラの長音を除いたもの+る → ベタル → 使用者は意味が分かるが、不使用者は意味が分からない

筆者は、「ベタル」を机間指導をしている際に紙面で見て、何を動詞化したものなのか分からなかった。おしゃべりをして過ごすことだろうと推測しながら、記入していた学生(物質工学科4年生女子数名)に尋ねたところ「エレベーターに乗ることを『ベタル』って言うんです」という返答があった。同じ学科の女子数人の間では頻繁に使用しているらしい。他の学科(4学科)の状況も知りたいと思い、『「ベタル」って何の略語か分かる?』と尋ねたところ、1人も知っている者はいなかった。そこで筆者が造語の過程を説明したところ、理解はしていたが、使うことには抵抗があるように見受けられた。この「ベタル」は、窪園(2006)で挙げられている規則性から外れるものであり、「エレベーターに乗ること」とは連想しづらいため、使用者は「仲間うち」に限定されるのだと思われる。しかし、福井高専の学生でも、規則性から外れることばを作り、使用しているという実態に驚いている。

#### ・造語8「ABC(またはABCD)」

AISATSU(挨拶)、BIKA(美化)、COMPLIANCE(法令順守)の頭文字で、体育祭限定でD

OPAMIN(ドーパミン)の頭文字がつくものであるため、「頭文字化」である。3単語(もしくは4単語)のローマ字表記のそれぞれ頭文字を取り出し、組み合わせる方法で、娯楽機能がある。この「ABC(ABCD)」に関しては、娯楽機能は持ち合わせていないが、学生には浸透している。

## 6. まとめ

これまで、福井高専生が使用する(または知っている)福井高専特有のことば(キャンパスことば)について、考察をしてきた。学生の多くは「国語が苦手」と話してはいるが、今回のデータを見る限り、「ことば遣い」には非常に興味関心があることが分かる。また、日々の授業では、「相手に失礼にならないことば遣いをしたい」と思い、目上の人に対することば遣いについて、積極的に様々な質問を投げかけてくる背景がある。おそらく、友人間でのことば遣いに関しては「楽」「たのしい」ことを優先し、自分よりも目上の人、年上の人に対しては相手に配慮したことば遣いをするという「使い分け」をしているのだと思われる。実際、当然ではあるが、学生の中に「学生と先生に話す時では、ことば遣いが違いますよ」と言う者がいる。そのため、若者ことばや福井高専特有のことば(キャンパスことば)を使うか使わないかに関しては、周囲の仲間にあまり左右されることなく、自分の意思でことばを選んで使用しているように感じられた。

「教員に関する語」や「造語」に関しては、若者ことばに多いとされるマイナス評価語もユーモアを感じさせるものになっていることが特徴的であった。不謹慎ながらも思わず顔がほころんでしまうのは、ひとえに福井高専生の優しさとユーモアのある性格が表れているからであろう。

最後に、今回は、学生から集めたことばを「人」と「物事」に分類した分析しかできなかったことが心残りである。加えて、先行研究で行われているような「ことば集」としてまとめることができなかった。福井高専特有のことばの位置づけがよく理解できていない学生が若干いたので、今後は「福井高専特有」と限定せずに若者ことばを収集してことば集を作成し、若者ことばの男女差もさらに分析を加えて報告したい。また、全国の高専に調査を依頼して(また

は共同で調査をして)、高専生特有のことば遣いやさらなる特徴が明らかになれば、その結果を授業に反映させ、少しでも「国語」に苦手意識を持つ学生を減らすことができるのではないかと考える。

### 参考文献

- 岡田祥平 (2011) 「九州共立大学キャンパスことば集 (第1版)」『九州共立大学研究紀要』 2 (1) 九州共立大学
- 窪園晴夫 (2006) 「若者ことばの言語構造」『言語』 35-3 大修館書店
- 佐藤高司 (2006) 「特別寄稿 茨城高専生キャンパスことば ベスト 50」『茨城高専図書館だより』 第63号 茨城工業高等専門学校図書館
- 三省堂 (2006) 『大辞林第三版』 三省堂
- 小学館 (2006) 『精選版日本国語大辞典』 小学館
- 中東靖恵 (2003) 「現代大学生のキャンパスことば—岡大生のことばと生活—」『ことばと文化』 創刊号 長野・言語文化研究会
- 原田幸一 (2013) 「一橋大学キャンパスことば調査」『一橋大学国際教育センター紀要』 (4) 一橋大学国際教育センター
- 米川明彦 (1996) 『現代若者ことば考』 丸善
- 米川明彦 (2008) 『若者語を科学する』 明治書院
- 米川明彦 (2009) 『集団語の研究 上巻』 東京堂出版
- 米川明彦 (2016) 「近年の若者ことばの特徴」『更生保護』 更生保護法人日本更生保護協会